

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」令和3年度学園だより

とう 雲 稲 雲

第14号

令和3年11月29日発行

発行者：校長 小貴 崇明



○「MY 弁当の日」に感じる家族への感謝

11月26日（金）は、『MY弁当の日』ということで1～9年生が弁当を持参しました。この活動は、子どもの発達段階に合わせ家族で協力してお弁当を作るという活動を通して、自分自身や家族の食生活や健康に対する関心を高めるとともに、家族と触れ合う機会とすること、そして家族への感謝の気持ちを育むことを目的にしています。

子どもによって、メニュー作り、買い物、1品だけ作る、お弁当箱に詰める、自分で全部作る等々、様々に取り組んでいただけたと思いますが、ご家庭で子どもたちとコミュニケーションを図りながらこの『MY弁当の日』を楽しんでいただけたら幸いです。ご家族の皆様のご協力に心より感謝いたします。（一番右の弁当は恥ずかしながら校長が自分で作った弁当です。）

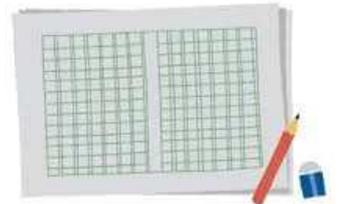


○作文コンクールでの入賞や学校賞が続いています！

『稲雲第13号』でもお伝えしていましたが、2学期後半に多くの作文コンクールで、稲田学園の子どもたちの作文が各種コンクールで入賞、またはたくさんレベルの高い作品を応募したとして学校賞をいただくことが続いています。

【第59回中学生作文コンクール】主催：公益財団法人生命保険文化センター

- ・ 都道府県別賞3等 8年 ●● ●●
- ・ 佳作 9年 ●● ●●●



【第34回明るい社会づくり運動作文コンクール】主催：明るい社会づくり運動福島県連絡協議会

- ・ 小学校上学年の部 福島県教育委員会教育長賞 6年 ●● ●
- ・ 中学校の部 岩瀬・須賀川地区協議会会長賞 8年 ●● ●●

【第15回『いつもありがとう』作文コンクール】主催：朝日学生新聞他

- ・ 団体賞 稲田学園（前期課程）

【令和3年度「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」】主催：福島県教育委員会

- ・ 学校賞 稲田学園（後期課程）

○児童生徒会・保健委員会で赤い羽根共同募金



稲田学園児童生徒会の保健委員会では、11月15日(月)からの1週間、「赤い羽根共同募金」を実施しました。保健委員が各学級を訪問して募金をお願いしました。24日(水)稲田学園校長室にて、集まった募金7,904円を須賀川市社会福祉協議会へ寄付させていただきました。保健委員会委員長、8年●●●●さんは寄付を渡す際に、「募金が地域のために活用されるとうれしいです。」と感想を述べていました。募金に協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。

○グループでの主体的で対話的な学び合い活動

11月19日(金)、須賀川市学校教育アドバイザーの先生をお招きし、1～9年生のすべての学級の授業を参観していただきました。

また、午後からは全教職員が参加し、8年生の英語科の授業研究を実施しました。授業では、外国から来た方に温泉の入浴の仕方や日本のマナーを英語でどのように伝えるかを子どもたちがグループで考



えるという活動を行いました。タブレット型パソコンを活用して単語や表現方法について調べたり、カメラ機能を活用して伝え方を工夫したりするなどしながら、8年生は生き生きとした表情を浮かべコミュニケーション活動に取り組んでいました。



授業後の指導助言では、具体的な指導の場面や指導方法、タブレットの有効な活用手法などについて、アドバイザーの先生からご助言をいただきました。稲田学園は、これからも9年間をかけた充実した子どもたちの学びについて全教職員で研究を進めてまいります。



★言葉と生きる(14) 「二兎を追う者は一兎をも得ず」

小学生には読めない人もいるでしょう。「にことをおうものは、いっとをもえず」と読みます。「同時に二つのことをしても、どちらもうまくいかない」という意味のことわざです。

令和3年の現在、この言葉は忘れ去られるのではないかという事態が発生しています。そう、大リーグで活躍する大谷翔平選手は、『二刀流』を高いレベルでやってしまったのです。つまり、「同時に二つのことをして、どちらもうまくいってしまう」人が登場してしまったわけです。でも私は、「二兎を…」という言葉が消えるとは思っていません。「あれもこれもと欲張り過ぎずに、一つ一つをしっかりとやっていこう」という意味では、現代でも大切な言葉です。ただ、大谷選手の偉業を示す『二刀流』という言葉は、「あきらめない強い気持ちさえあれば、常識を破るようなすごいことだって現実になる」と、とりわけ日本の子どもや若者たちにもものすごい元気と勇気を与える言葉になったことは間違いありません。